

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

【特徴(強み)】

1. 全ての圏域に精神関連部会ができ、圏域ごとに協議・検討する場があり、課題を共有できる。
2. ピアサポーターの活動が拡がりを見せ、入院患者のみならず、地域や病院職員の意欲喚起にもつながっている。
3. 多職種参加の地域移行推進研修により医療と福祉の連携強化につながっている。

課題	課題に解決に向けた取組状況	取組の成果
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた各圏域の様々な課題から、県全体の取り組みへどのように落とし込んでいくか。	これまで地域移行関連事業連絡会議を全2回開催。今後、県自立支援協議会精神障害者地域生活支援部会(代表者会議)において、3月中頃に課題解決に向けた協議を予定。	地域移行関連事業の進捗を関係者間で共有し、課題の整理を行った。また課題解決に向けた検討をする代表者会議を設置。
精神障害者の理解促進及び障害福祉サービス事業所と介護保険サービス事業所との連携をいかに強化するか。	県内2ヶ所において、精神障害者の障害特性と支援技法を学ぶ研修会を開催(紀北会場10/1-2、紀南会場10/8-9)。	紀北-実45名(うち介護関係者12名) 紀南-実77名(うち介護関係者27名) 精神障害者の障害特性の理解と支援技法について学ぶ機会となり、演習を通じて、介護と福祉のネットワークづくりの一助となった。

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①介護と福祉の連携強化のための研修参加者	127名(うち介護関係者39名)	200人	精神障害者の理解促進と連携強化に繋がった。
②課題解決に向けた継続的な協議の場の開催数	2回	3回	課題解決に向けた協議から、具体的な方向性を検討
③ピアサポーター活動の強化(活動人数)	16人	20人	前年13人から3人増えており、ピアサポーター活動が活性化されている。紀南圏域の活動をいかに増やしていくかが課題。

※現時点の値が分かれば記入して下さい。分からない場合は、年度当初の値で構いません。

●指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。